

【授業全体】

【授業全体】のねらい

命の尊さについて
自ら主体的に考える態度
実践的意欲を育てる

【授業全体】

【授業全体】において気を付けていること

教師が
代弁者や
スピーカー役になる

【導入】

導入において重要なポイントは？

臓器移植の**意思表示をさせることがねらいではない**
ということを宣言させる

資料を使いながら

脳死後の臓器提供と心停止の違いを説明し
教材に登場する6歳未満の女児の事例が
上がる根拠を説明する

【導入】

臓器移植の意思表示をさせることがねらいではない
ということ宣言させる

臓器移植について客観的な見方として
学校の教材として捉えていくことが重要

【導入】

臓器移植の意思表示をさせることがねらいではない
ということ宣言させる

生命倫理として
臓器移植を教材に使うという考え方が
重要だから

【導入】

臓器移植の意思表示をさせることがねらいではない
ということ宣言させる
ことによって生徒に

臓器移植を通して
命や自分の生き方 家族愛などを
考えることを期待している

【導入】

資料を使いながら脳死後の臓器提供と心停止の違いを説明し
教材に登場する6歳未満の女児の事例が上がる根拠を説明する

「臓器移植」について
深くは知らないので

脳死と心停止の違いや

どうして臓器移植が必要なのか

1枚のスライドで分かりやすく示すことが重要

【導入】

資料を使いながら脳死後の臓器提供と心停止の違いを説明し
教材に登場する6歳未満の女兒の事例が上がる根拠を説明する

脳死というものは長く続かないから
苦渋の選択を迫られ
苦悩の手紙になるという
ところを押さえることが重要だから

【導入】

資料を使いながら脳死後の臓器提供と心停止の違いを説明し
教材に登場する6歳未満の女児の事例が上がる根拠を説明する
ことによって生徒に

言葉やイメージでしかなかった
脳死とか臓器移植について

より具体的なことを知識として入れた上で
授業を受けることを期待している

【導入】

【導入】において気を付けているところ

いろんなことを授業をしない

「今日はこういうテーマを扱うけども
嫌だったら伏せていたり
保健室と行ってもいいよ」
と前もって配慮する

【活動1】

活動1において重要なポイントは？

○提供される側になった患者の家族について考える

○提供をする側になってしまった側の家族について考える

2つの立場から考える

全体で考えを共有する

【活動1】

- 提供される側になった患者の家族について考える
 - 提供をする側になってしまった側の家族について考える
- 2つの立場から考える

その家族や当事者になって
考えさせる
ことが重要

【活動1】

- 提供される側になった患者の家族について考える
 - 提供をする側になってしまった側の家族について考える
- 2つの立場から考える

考えが散らばってしまいがちな問いを
2つの立場に分けて考えることにより
深く読み取ることに繋げる
ことが重要だから

【活動1】

- 提供される側になった患者の家族について考える
 - 提供をする側になってしまった側の家族について考える
- 2つの立場から考える ことによって生徒に

それぞれの立場に分かれて考えることにより
しっかり深く考えて
授業ができるようになることを期待している

【活動1】

全体で考えを共有する

気が付いていなかった視点を見つける
あるいは同じだけれど深めるために重要

【活動1】

全体で考えを共有する

他のグループから聞かせてもらった意見で
自分なりに落とし込んで理解をしていく
納得解を得られることが重要だから

【活動1】

全体で考えを共有する
ことによって生徒に

1つの物事に対しても
いろんな見方や考え方を広げること
を期待している

【活動1】

【活動1】において気を付けているところ

学級みんなで
同じ思いを共感していくように
意見を吸い上げる

【発問1】

【発問1】において重要なポイントは？

父親の立場として
Aちゃんの命が
どんなふうにつながっていくか
いろんな想像をしながら
「思いを込めている」ことに気付かせる

【発問1】

父親の立場として
Aちゃんの命がどんなふうにつながっていくか
いろんな想像をしながら「思いを込めている」ことに気付かせる

Aちゃんの命は生き続けるということを
生徒に理解してもらうことが重要

【発問1】

父親の立場として
Aちゃんの命がどんなふうに関がっていくか
いろんな想像をしながら「思いを込めている」ことに気付かせる

父親の「命を誰かに繋げる」
という思いから

どこかで考えている『死』について
改めて考えるきっかけ
となることが重要だから

【発問1】

父親の立場として
Aちゃんの命がどんなふうに関がっていくか
いろんな想像をしながら「思いを込めている」ことに気付かせる
ことによって生徒に

父親の思いから

自分の家族に思いを派生して考えて
もらうことを期待している

【発問1】

【発問1】において気を付けているところ

教師から教えることはせず
生徒からたくさん発言を拾う

【発問2】

【発問2】において重要なポイントは？

『**生命はとても大切なものだ**』と押さえてもらう

『生きていくということは
他者の犠牲に自分たちがあるんだ』
と押さえてもらう

※ここでいう犠牲とは
魚、肉、野菜などその**命を頂いていることで**
成り立っていること

また一人で生きていくのは**難しく**
他者に支えられていること

【発問2】

『生命はとても大切なものだ』と押さえてもらう

非現実的な『生きる』ことを考えることで
改めて彼らに立ち止まってもらう
ことが重要

【発問2】

『生命はとても大切なものだ』と押さえてもらう

自分の体験の中にある家族との別れなど
自分のこととして考えることが
重要だから

【発問2】

『生命はとても大切なものだ』と押さえてもらう
ことによって生徒に

「自分も他者も大切にしよう」
「命なんてそんな簡単なものじゃない」
という思いになっていく
ことを期待している

【発問2】

生きていくということは 命を頂くことで成り立っていること
他者に支えられていることを押さえてもらう

1人では生きていけない
犠牲や他者の支えがあるから
次の世代に残すことができる
ということを考える
ことが重要

【発問2】

生きていくということは 命を頂くことで成り立っていること
他者に支えられていることを押さえてもらう

生きるためには
いつも誰かの犠牲（食べ物や他者の支え）
に成り立っていることを
生徒に理解してもらうことが
重要だから

【発問2】

生きていくということは 命を頂くことで成り立っていること
他者に支えられていることを押さえてもらう
ことによって生徒に

自分のことだけではなく
家族や友だちの存在で
自分は支えられていることに
思いを馳せることに期待している

【発問2】

【発問2】において気を付けているところ

教師が「生きるってこういうことだよね」
って言わず **生徒と一緒に考える**

単調な回答の先の言葉を聞きたいので
「どうしてそう思うの?」と
アシストしてあげる

【活動2】

【活動2】において重要なポイントは？

母親の言葉から
「我が子に生きていてほしい」
という願い一つだけということ
を押さえてもらう

【活動2】

母親の言葉から「我が子に生きていてほしい」という
願い一つだけということを押さえてもらう

**母親の純粹に自分の子どもを愛する
メッセージであることが重要**

【活動2】

母親の言葉から「我が子に生きていてほしい」という
願い一つだけということを押さえてもらう

Aちゃんの母親のように
自分の家族も
自分のことを思っていることを
気付かせることが重要だから

【活動2】

母親の言葉から「我が子に生きていてほしい」という
願い一つだけということを押さえてもらう
ことによって生徒に

家族愛や

日々に支えられている

自分への**恩恵に対する感謝の思い**

命を大切にしよう

と変わっていくことを期待している

【活動2】

【活動2】において気を付けているところ

母親のダイレクトで深いメッセージを
噛みしめて考えてもらう
それをみんなで共有する